

西尾九条の会、全国緊急署名開始！

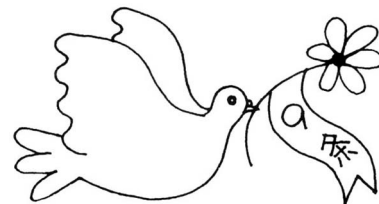
西尾九条の会は3月7日(土)、寺部町において「改憲発議に反対する全国緊急署名」と、それに併せて「核兵器廃絶国際署名」を、各家庭に訪問する形で署名活動を取り組み、1時間ほどでそれぞれ31筆もの署名を集めました。

安倍首相は、去年の7月の参議院選挙で、改憲に必要な3分の2議席を割ったにも関わらず、「民意が改憲について論議すべきという意思を表明した」などと、事実とは異なる強弁を続けています。

そして2021年までの改憲を目指して、改憲勢力の再編を目論んでいます。

事態は緊急です。

核兵器禁止条約の批准国を増やすことへと繋がる「核兵器廃絶署名」とともに、安倍政権による9条改憲を許さない「改憲発議に反対する全国緊急署名」を、みなさんで取り組みましょう！



震災当時の様子



想定される震災の範囲



戦時中に起きた三河地震 報道されず、犠牲者 2652 人

東日本大震災から、この3月で9年になりました。

この東海地方でも近い将来、南海トラフ巨大地震が起こることが懸念されています。

今から75年前、戦時中に東南海地震や三河地震が発生しました。

しかし政府は、国民の戦意高揚に影響をあたえるとしてマスコミを統制し、被害状況を報道しませんでした。

東南海地震では、報道統制により支援がなされず、また被害を記者に伝えた人が憲兵に捕まり、拷問されたという話もあります。

また三河地震では、東南海地震よりも多くの死者がでました。

近年になって見つかった資料によれば、幡豆郡と碧海郡で死者が2,652人に達したと言われています。

西尾市において戦争と地震は、切り離しては考えられません。

南海トラフ巨大地震で西尾市は、三河地方で最も多い被害者の出ることが予想されている地域です。安倍政権のやるべきことは、9条改憲ではなく、近い将来に備えた国主導の震災対策ではないでしょうか？

新型コロナウイルスに対する懸念はありますが、緊急署名はこれからが正念場です。
手元にあります署名を、今年度分として3月30日までに、事務局へ届けてください！

徴用工問題、解決への道は個人補償

韓国人の元徴用工が、太平洋戦争中に日本の企業に強制的に駆り出され、過酷な労働を強いられたことに対する損害賠償を求めている問題。解決の道はあるのでしょうか？

政府は「1965年に韓国と結んだ請求権協定で解決済み」という姿勢です。しかし国際人権法では、国家の権利とは関係なく、個人の裁判を受ける権利の保障を徹底することによって、人権を保障しようというのが大きな流れです。

そもそも日本政府は、請求権協定締結時から個人の請求権は認めるという認識でしたし、日本の原爆被害者が日本政府の保障を求めて提訴した際も「国家の権利とは異なるから、国家が外国とも条約によってどういう約束をしようと関係ない」…すなわち被害者個人が、加害国や加害企業に請求する権利があると認めてきました。

国会でも徴用工の問題が議論された時、外相は「個人の請求権は消滅していない」と答弁しています。

朝鮮人労働者が従事させられた過酷な労働実態は、日本で行われた裁判でも事実認定がされていますし、ILO（国際労働機関）も解決に向けて日本政府が行動するよう勧告しています。

徴用工問題を解決するには、まず日本政府が、当初の認識に立ち返ることが求められます。



デモをする元徴用工の人々

あいちトリエンナーレの少女像 表現の自由求めて青年が元気に公演

あいちトリエンナーレで開催された「表現の不自由展・その後」に展示された「平和の少女像」。

慰安婦を模ったこの像をはじめ、様々な展示物が、一部の心ない人々によって物議を醸し、一時は企画展の中止に追い込まれた同展の問題について、名古屋の劇団「労働者劇団つぶれそう一座」が、「平和の少女像」をモチーフに「少女」という舞台を公演しました。

(2月16日(日) ウィルあいちにて)

20代の若者が主な構成メンバーとなっている同劇団は、これまでも平和をテーマに様々な場所で公演を行っており注目されています。

演劇は少女像をめぐる、元慰安婦、某市長、出産を控えた妊婦などが登場し、何も語らない少女像に、自分の思いのたけを語ります。

その中で透けて見えてくる、平和とはなにか？表現とはなにか？

劇団の若者たちは元気に役を演じ切り、演劇という表現を通して、その問題の本質を見事に浮き彫りにしました。



公演のチラシ



つぶれそう一座のメンバー

今後の予定

寺部地区署名活動 署名用紙配布 4月1日(水) 10:00 幡豆支所集合
署名回収 4月4日(土) 5日(日) いずれも 9:30 幡豆支所集合
*署名回収は多くの人手が必要です。是非ご協力をお願いします！
2020年度総会 5月17日(日) 14:00~ 一色公民館
(日時場所は予定)

編集後記

毎回のニュース作成は、苦勞しますが、ただ改憲を巡る問題は待つてはくれません。今年も発行を続けていきます。
(加藤)